

23年度・心身障がい者施設「ともの家」事業計画

基本方針 「ともの家」の理念と23年間の歴史の中で受け継がれてきた大切なことを見失わずに進むこと。仲間のことは当然だが、高齢になった保護者の支援と、職員が働きやすい職場環境と安定した俸給を目指す。

理念

- ①障がい者も主人公として精一杯生き、働き、人間としてたくましく、豊かな人生を築くことを目的とする。
- ②地域の人々の理解と協力のもとに、障がい者と共に生きる町づくりを目指す。
- ③障がい者や家族・関係者一人一人の意見を大切に、民主的な運営を目指す。

年度末になると、仲間の状態や職員への負荷、設備の問題等を考え、これ以上の授産収入を見込まずに維持できればとの思いを公言してきましたが、22年度も予想を上回る授産収入の増になってしまいました。授産と言う事業をやっている以上当然の事ながら、皆売れば嬉しいし、頂いた注文を断る理由が見当たらなくなってしまい、良くも悪くもこれが大きな要因と考えています。就労継続に新しい仲間3名を迎えることになった23年度は、新たな体制を作り出すチャンスと捉えています。負荷が掛かりすぎている生活介護の仲間の作業を、少しだけ就労継続にお願いし、就労継続の仲間の安定的な仕事確保のための受注を、積極的に行っていきたいと思っています。仲間たちの技術力をアップさせることで、職員の負荷を軽減できる部分は限られてはいますが、仲間たちにも多少のプレッシャーを掛け、工賃のアップを目指して取り組んでいければと思います。

今年度は、体制を整えることと平行して、仲間の地域生活の場を広げるための、グループホームの建設が始まります。成人した大人の生活が、イコール親から離れての暮らしとは限りませんが、親からの自立を希望する仲間の要望に応えるための建設でもあります。仲間たちの地域生活は、障害基礎年金と工賃で賄われ、グループホームの運営は支援費給付金で成り立ちますが、どちらも厳しい財政状況であることに変わりはありません。仲間たちは生活する上で余分なものの購入はほとんど出来ませんし、施設側はぎりぎりの職員体制での運営を余儀なくされています。当面これといった打開策は見当たりませんが、余裕ある施設経営には事業の拡大が不可欠だとの結論には達しているものの、関わる“人”の問題があり、事業拡出来ないのが現状です。それでも新たな施設ができることが刺激になり、大きな楽しみがひとつ増えたとの発想で、進めていきたいと思っています。

(1)生活介護 「ピース」

- 新しいことにチャレンジ！仲間同士のつながりに重点を置く。
- ・身体ケアと活動・作業のバランスに留意し、健康で楽しく過ごせるよう支援する。
- ・仲間たちの心の声に耳を傾け、安定した生活を送れるよう支援する。

(2)就労継続 B 「パン工房」「ヴィーブル」

- 地域生活の中でも生かせる人間力を身につける。
- ・製菓作業を通じ、仲間たちの特性や能力・技術を伸ばす支援をする。
- ・忙しい時も一緒にがんばっていける仲間作りを支援する。

(3)共同生活介護・共同生活援助 「グループホーム とも」

- 地域社会との繋がる為の活動を具体的に進める！
町内会の行事への参加
- ・利用者の平穏な生活を支援する。
- ・日常生活における食事・洗濯・掃除・買い物の支援をする。